

【提出様式・CS校】 令和7年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 千川中 学校

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
241	97	16	8

領域	豊島区教育ビジョン 2025 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に向けた改善策				
				児童・生徒				保護者					地域					教職員		自己評価概要	学校関係者評価の意見		標語			
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3					2	1	
II	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	II-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					36	44	4	0	13	7	1	0	0	0	9	7	0	0	保護者、地域共に高評価となっている。家庭への便りを活用し、小中連携の実践の紹介などを引き続き行っていく。	小中合同の地域清掃は天候の影響で中止となってしまったが、授業体験はいい機会となった。	A	天候不順で中止になってしまった小中合同地域清掃の実施をはじめ、今年度から生徒会がPTAおよび学校運営協議会の後援を受けて開催する地域イベント「千中祭」を小学校にも広く呼び掛けるなど、交流の機会をさらに増やす。	
I	学びに向かう力の育成	I-1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	28	48	9	0	12	5	3	0	0	0	7	9	0	0	0	0	0	0	授業改善プランを軸に、各教科でICTを活用している。特に、話し合い活動と振り返り活動での成果が大きい。ICT機器は、学活・総合・道徳などでも活用が進み、活かされている。	生徒が落ち着いて授業に取り組んでいて良い。話し合い活動にタブレットを使用して、活発に意見を交わっている様子が印象的だった。	B	授業改善プランを活用し、教員相互の授業観察機会を計画的に配置し、改善のための協議ができる環境を整える。ICTについては、学期ごとの自主研修会をはじめ、支援員に頻りに相談する機会を設け、活用実績を伸ばしている。授業での有効な実践方法を教員間で共有するなど、より分かりやすい授業の実施に向けて授業力向上に努める。
		I-2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		25	56	4	0	12	6	2	0	0	0	10	5	1	0	0	0	0	0				
	豊かな心と人間関係の育成	I-3	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。		34	46	3	0	14	4	4	0	0	0	9	7	0	0	0	0	0	0	デジタル教科書の活用により、教材研究や資料の提供がスムーズにできるようになり、授業の質が向上した。生徒の話し合い活動にクロムブックを活用することで、全ての生徒が発言・発表しやすい環境が整えられている。	資料の提示が視覚的にわかりやすい。生徒一人一人の意見が画面に映し出され、意見の共有がすぐできる。	A	デジタル教科書や、タブレットの活用で授業の質が向上し、全ての生徒が発言・発表しやすくなった。道徳担当を中心に授業計画を示し、余裕をもって授業準備できる環境を整える。また、全教育活動を通して互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりのために、生徒の言葉に耳を傾け、寄り添う姿勢を教員間であらためて確認する。
		I-4	学校は、生命を大切にできる態度や思いやり、優しい心を育てている。		29	46	6	0	16	5	3	0	0	0	8	8	0	0	0	0	0	0	また、i-check等を活用して、生徒の変化に対応できるようにしている。			
	健やかな生活を送るための体力づくり	I-5	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		29	46	11	0	11	5	3	0	0	0	7	8	1	0	0	0	0	0	体力向上については、特に柔軟性に課題があるため、授業では、柔軟性を高める運動に重きを置いている。食育指導としては、旬の食材や、季節行事を意識した献立づくりに取り組み、生徒が興味をもって食と向き合える努力をしている。	食育をよくやっている印象である。給食がある中学生の間に、睡眠・食習慣を身につけ、卒業して欲しい。	A	柔軟性を高める運動に重きを置いた授業を行うことで、体力向上やケガの発生予防に努める。また、委員会活動を活発にし、給食の準備時間を短縮する工夫を生徒主体で考えさせることで、喫食時間を十分に確保し、生徒が食に向き合える環境を向上させる。
		I-6	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。		30	41	8	1	17	6	2	0	0	0	6	8	2	0	0	0	0	0				
III	多様な子どもに対する支援の充実	III-1	学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。	29	41	2	2	23	5	3	0	0	0	8	8	0	0	0	0	0	0	特別支援教室や個に応じた指導について、HPや学校要覧に載せたり、保護者会で説明したりするなどの取組を行った。	SSRができて、更なる一人ひとりに寄り添った指導に期待したい。	A	各種アンケートを定期的実施するとともに、いじめ対策委員会、特別支援委員会、不登校対策会議の定期開催を継続し、学校全体での共有と対応力の向上に引き続き努める。適切な合理的配慮が行われるよう、特別支援担当やSSWをはじめとした外部機関との連携を強め、校内委員会での協議をさらに深めることで生徒に資する。また、特別支援教室や個に応じた指導について、保護者会で説明したり、「Sルーム通信」を定期的発行したりすることで周知を図る。	
		III-2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。	38	49	1	1	8	6	2	0	0	0	9	7	0	0	0	0	0	0	長期休業後に生徒面談を実施し、子どもたちが相談しやすい環境づくりに努めた。				
		III-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。	28	26	2	0	41	6	2	0	0	0	10	6	0	0	0	0	0	0	いじめ対策委員会と特別支援委員会、不登校対策会議を定期的に関き、学校全体で協議、対応できるようにしている。				
V	教師力の向上と魅力ある学校づくり	V-1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。	42	46	3	0	6	7	1	0	0	0	5	10	1	0	0	0	0	0	生徒が落ち着いて学習に取り組める状況であることが評価されている。生徒自治の考えが浸透し、学校全体でより良い環境をつくらうとする活動が、全体の印象に良い影響を与えている。	落ち着いて授業に臨んでいた。熱心に話を聞いていたり、話し合いに参加する様子が見られた。	A	落ち着いた学習状況である現状に油断することなく、職員一人一人が学校環境や授業力の向上に努める。そのために、各分掌や各学年、各教科の協議内容を精選し、課題の発見と解決、検証に努める。	
		V-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。	35	41	0	1	20	7	1	0	0	0	9	6	1	0	0	0	0	0					
	家庭・地域との連携	V-3	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。	57	33	2	1	4	5	3	0	0	0	7	9	0	0	0	0	0	0	ホームページの整備によって、学校の様子が保護者に伝わりやすくなった。また、今年度導入された「すぐーる」は、今までの電話連絡よりも連絡が取りやすくなり、保護者・職員ともに負担が軽減された。	生徒会を中心に地域行事に参加し、企画力も向上している様子が伺える。来年度以降も連携を深めていきたい。	A	ホームページを見てくださる保護者が多く、学校の様子が伝わりやすくなったことを実感した。また、「すぐーる」の導入で簡単なメッセージのやりとりも容易になった。来年度もホームページや「すぐーる」を活用し、学校行事や学校見学の情報を発信していく。また、生徒会を中心に地域行事に積極的に参加し、連携を強化していく。	
		V-4	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。	39	48	1	0	9	7	1	0	0	0	9	7	0	0	0	0	0	0					
		V-5	学校はコミュニティ・スクールを推進し、保護者・地域住民等が学校運営に参画し、学校と一体となって子どもたちを育む体制を構築している。	29	34	5	0	29	7	1	0	0	0	3	13	0	0	0	0	0	0	生徒会を中心に、有志を募って地域行事に参加したり、道徳授業地区公開講座や学校行事を地域にも公開したりすることで、CSの認知度が前期よりも高くなった。				
	特色ある教育活動	V-6	学校は、地域と連携した防災・安全への取り組みに関する教育を推進している。	40	40	3	0	14	6	2	0	0	0	9	7	0	0	0	0	0	0	1年生は保護者と協力したHUG、2年生は区の防災危機管理課と連携した避難所設営訓練、3年生は消防署と連携した普通救命講習を行い、防災安全教育の推進に取り組んでいる。	防災活動は千川中の核となっている部分である。より充実した活動に期待している。	A	地域の消防団や防災機器管理課等と連携し、これまでの取組から、良いものは残し、新しいものを取り入れ、生徒や地域の実態に即した、生徒が地域の力になれる防災安全教育の推進をする。	
IV	働き方改革	IV-1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。										3	7	6	0	0	0	0	0	担当した仕事内容によって、負担の差が出てしまっている。業務内容の見直しや、定期的な部会を開き進捗状況を確認することが必要である。	教員の負担軽減策がまだ必要という意見が見受けられる。更なる取り組みに期待したい。	A	校内OJTの態勢を整え、若手教員の育成とともに中堅ベテラン教員のリーダーシップが発揮されるよう、生徒指導や学級経営、行事運営などについて協議をする機会を設ける。教師一人一人の力量を高めることで、業務の効率化を図り、働き方改革に繋げる。		

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある